明日へ向かって

第３学年　学年だより
令和５年　９月２８日
第３７号

修学旅行を終えて作文紹介①

僕はこの数少ない ３ 日間の修学旅行で西日本である京都、奈良の古い都市づくりや木造建築の作り方昔の人の考え方が分かりました。

この３日というとても少ない時間で奈良と京都で学習するにはかなりつめつめとなり正直結構時間通りに動くのは難しかったです。

１日目のまず最初に学んだこと、もはや新幹線に乗る前に感じたことは「仕事は自分の分を完璧にやるというよりみんなで少しずつでもいいからわかっておく。人に完全にまかせっきりにしてはいけない」ということが分かりました。なぜなら個人が悪いとはまったくもって行ってないけど班員の一番重要といってもいい副班長のコース係さんが休んでしまってサポーターながらコースのことは完全に任せてしまっていたのでぼくは一つ一つの場所や地図さえも分からない状態でその命綱であるコース係さんがお休みしてしまい、東京を出る前からとても不安で後悔していました。結果、時間の管理も難しくなりつめつめもしくはすかすかとなってしまいました。

１日目は東京から新大阪までの移動。そして法隆寺そして東大寺奈良公園と回りました。めったに新幹線に乗ることや奈良に行くこともないので新幹線の中でも新しい発見がたくさんありました。コンクリートやビルに囲まれた生活をしていたら近くの公園の木でさえも「自然だなー」と思うくらいですが新幹線の中から見る途中の神奈川県や静岡県、愛知県は窓から見ると空がとても大きく緑が多い田んぼなどがたくさんあり日本の農業の一部なんだなと思いました。そしてその新幹線もたった３０分で景色がものすごく変わり、たったの２時間３０分で新大阪までついてしまうというまさに日本の技術の集大成ともいえる乗り物だと思います。これが 1964 年に５年という短い期間で完成したとは思えません。

新大阪につきバスで世界最古の木造建築である法隆寺に行ったら当時建物はどのように建ってどのように今まで崩れずにいられたのかが分かりました。

バスのガイドさんにもたくさん解説していただき、例えば屋根を支える柱はエンタシスという構造であり同じく屋根を支える横の柱、梁が少し曲がっていてより強固になるように工夫されているんだなと思いました。そして同じ法隆寺という場所の中でも少しだけ違う作りで面白かったです。しかしすべての柱の根本、一番基礎の部分は石で固められていました。さらにさらに １ つの柱でも ２ つの異なる気がとてもきれいに組み合わさっていたものあり何より本当に釘が一つもなく、ものすごくきれいに、寸分の狂いもなく木が切られ、組み合っているとこの目で見て本当に日本の土木技術はすごいなと感動しました。

一つの場所でもこんなに多くのことを学べるので昔の都は本当にすごいと思いました。（少し巻きで行きます）

奈良公園は 660 ヘクタールという東京ドームで換算すると 143 個分という本当に化け物みたいな広大な土地の中に東大寺というものすごく大きい大仏様を置いているお寺があります。僕たちは東京ドーム 143 個並べた中からガイドなしで屋台 １ つ分のお店に行こうとしていたので本当に無謀なことしていたんだなと思いました。

宿への移動中のバスではバスガイドさんがとても頑張って奈良、京都の魅力を伝えてくれていたのに後ろの僕たちがかなりうるさくしてしまいあまり聞こえなかったので人の話はしっかり静かに聞きたいなと思いました。

２ 日目は班行動ということでまさに道が分からない僕たちにとっては不安でしかなかったのですが文明の利器「スマホ」というものでまぁ何とか観光することができました。１ つ目は伏見稲荷、２ つ３つ目は軽食と昼ご飯、４ つ目は二条城、５つ目は京都御所に行きました。
早速１つめの伏見稲荷では時間がなく 15 分で観光しなくてはいけなかったのでサッと行って千本鳥居だけ見ました。普段各場所ひとつずつしかない鳥居があんなにたくさん隙間なく並んでいたらくぐるだけで体が浄化されていく感覚になりました。調べてみるとこれは江戸時代に願い事が「通るように」または「通った」というお礼を込めて鳥居の奉納が始まったらしいです。なので鳥居一つ一つには奉納された企業とその代表者？が刻まれていました。これはこの伏見稲荷という有名な神社を日本のみんなで支えている気がしてとても熱い友情のようなものが感じました。すべてがすべて同じではなく少しだけ高さや大きさが違うのもとても面白いです。

京都駅周辺を歩いていると抹茶のお店がとても多くあるのが分かりました。その中で駅の前にある「辻利」というお店に足を運び、抹茶ソフトクリームを食べとてもクリーミーでおいしかったことを覚えています。

問題が起こったのは次です。つぎはお昼ご飯の予定で竈炊き立てご飯土井八定口店に行こうとしたのですが、今僕たちがいるのは烏丸口方面、お店があるのは駅を挟んで反対側の八条口方面だったのです。始めてくる土地、駅なのでどうやって向こう側にわたるかわかりませんでした。今までほとんど時間通りに進んできていましたがここで 30 分くらいロスしてしまいました。さらにお目当ての竈炊き立てご飯土井が見つからず第 ２ 候補の孫兵衛に足を運びコロッケを食べました。京都の人はとても優しく何も言っていないのに水を入れてくれたり隣のテーブルから水を持ってくるというクレイジーなこともしてくれました。

二条城では当時のお城の大規模さや当時の身分のことがよくわかりました。そして法隆寺にもあったのですが庭がほぼすべて砂利で敷き詰められており少々歩きにくかったです。調べてみると河原で入手しやすいことや水たまりにならないこと、日本庭園の文化である枯山水であるからというのも出てきました。音が鳴ったり歩きにくかったりするので使われたそうです。

京都御所は残念ながらやっておらずその手前の庭のような公園のようなところを歩きました。自然がとてもきれいで代々木公園のように大都市の真ん中に公園があるような感じなのでるがレベルが違いました。数多くの木や花が植えられており道は全部砂利。そのなかに厳島神社もあるくらいでした。

ちなみにこの時は時間の遅延は １ 時間となっていました。なので ２ ついけませんでした。

宿では初めてのセンスづくりでいつもとは違う絵具でとても面白かったのを覚えてます。早くセン

スとなった姿が見てみたいです。

３日目はタクシーの運転手さんが全部説明、案内してくれてさらに時間ぴったりに事が進み速すぎず、遅すぎない時間で京都駅に着きました。お土産を買う時間も計算されつくしており本当にびっくりしました。プロはやっぱり違うなぁと思いました。

銀閣寺や金閣寺ではどちらも山のふもとにものすごい自然の中にあるとこが一目瞭然でした。というかタクシーで移動していて 30 分前はあんな大都市を走っていたのにいつの間にか山まで来ていたことに驚きです。何億年前の貝のかけらが入った砂が積みあがって星光を反射するなどそもそも建物自体が金で我々の目をつぶすなどありましたが金閣寺は大体 50 年に 1 回のペースで金箔を張り替えるらしいのですが僕たちが行ったときは金箔が張り替えられてすぐの時に見に行けたらしいです。運転手さんによると「コロナ禍でみんないないから金箔張り替えちゃおっか」みたいな感じで 30 年で張り替えたらしいです。なのでほんとにラッキーでキンキら金の金閣寺を見れました。

この 3 日間で西日本、奈良京都の古い都の建物や歴史がよくわかった気がします。そして京都の人々は一人一人が自分は京都民で自分の「府」を大切に思い昔から残っているものは「壊して開発しよう」という考えより「日本を作り上げた都市として後世に伝えていこう」と感じているからこそこのようにきれいに再建されたものもありますが当時のものがそのまんま残っているんだなと思います。僕たちも今あるものを大切につかい長く使えるようにメンテナンスをしたいなと思いました。

最後に一人が休んでもみんなが助け会えるように一人だけ知っている状態ではなく情報をみんなに共有していきたいなと思いました。　　３組